

まるみえ 博善社!

おでかけ
version



vol.13 2021年 11月号

このニュースレターはブログ「まるみえ博善社!」をおでかけ用に着飾ったちょっと役に立つ情報紙です。お昼の休憩時間やお風呂あがりにお読みください。

回覧歓迎! 回覧すると幸せになれるご祈禱済み(笑)

今月のチャレンジ

知らない言葉の単語帳をつくらう!

肩書「百獣の王を指す男」のタレント武井壮さんの日課は毎日1つは自分の知らないことを調べること。
「つまらない」ことも調べてみると、楽しさが見えた。何百回と経験し成長できたこと。まずは知らない単語を単語帳にストックしよう。



▲モバイル型ロボット電話のフレディくん

この子、名をフレディ君という。ココロを前向きにしてくれるロボットという広告文句で販売されている「ロボホン」だ。どんなことが出来るの? って思ったら「キラリ探検隊」のブルーデント・ジャパンさんの活用例をご覧ください。持ち主の顔を覚え成長していくらしい。筆者の見たモノ感じたコトを咀嚼して原稿を書いてくれるロボットがいたらと思いつつ今回も皆で執筆しました。

お!?! 仕事のデント

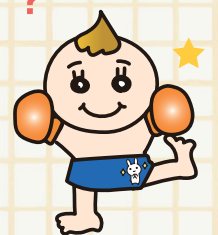
企画調査、顧客でなくて誰に聞く?

もはや「g r k s (ググレカス)」とは何かが、若者に通用しなくなっているらしい。「質問する前に」グーグルで検索しろカス野郎」という意味のネットスラングで、言葉こそ上品ではないが「まず自分で調べよう!」という進言としては重要だ。上記コラム(今月のチャレンジ)にもあるように、調べる努力(!!まめさ)は自己成長のキーである。それと同じレベルで、マーケティングスキルを向上させるキーが「トライ&エラー」だ。

販促企画は、推敲しすぎは禁物。考えて寝かして置いておかない。時間とともに勢いは減退し、人目に触れる前に疲弊し機会損失になってしまう。そこに関係者を巻き込んでいたら信用失墜にも繋がる。ホールインワンよりも、軌道修正しながら早くカップに沈めるのが「トライ&エラー」のルール。なぜなら正解は顧客しか知らないから。

また、顧客になりえない人に意見を聞きすぎるのは良くない。「大衆は常に間違っている」と元P&Gの西口さんが「N1分析」と名付け、千人より一人の顧客を知れば良いと言っているのは、良くある調査対象の間違いへの警鐘でもある。

当社の表彰状の作成サイト「たたえーる」も顧客からの反応を施策の源泉にしている。ネット通販だが、顧客から電話やメールで問合せが入る。対話ができるマーケティングに必要な情報がヒアリングできる。価格の質問があれば価格体

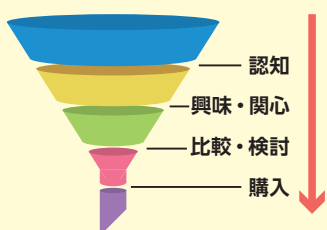


コバスポ

キングカズを崇拝。20代に交じってキックボクシングをたしなむ40代。ケガをしない程度に頑張ります!

マーケティングファネル*のイメージ

見込み客が購買に至るまでのプロセスを図式化したもの。



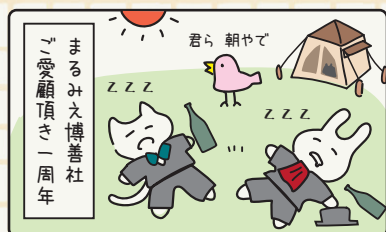
*ファネル (funnel) とは、日本語で「漏斗(じょうご)」。

系をシンプルに改定。音楽教室から注文が多ければ最適化した商品を追加。想定外の行動をする顧客がいたら、その意図を確認し注文画面を変更してきた。
とは言いつつ、「たたえーる」は本当の顧客以外のアクセスが大半で、サーチコンソールで流入キーワードを調べると「表彰状 テンプレート」など無料テンプレートを目的としたキーワードが上位を占める。でも、これは認知→興味→比較・検討→購入というマーケティングファネルを意識した戦略。世の中に役立っているサイトとしてグーグルに評価してもらう狙いなのでこれも正解。まずは世間に認識してもらい、サイトを強くして分母を増やさないと始まらない。冒頭にググレカスと言ったが、自分の発想にないモノには調べても辿り着けない。そういう時は素直に聞くのがいい。g r k s も正解ならA S Kも正解ということだ。

キラリ
探検隊

全国の確定拠出年金導入企業に投資教育セミナーを提供するブルーデント・ジャパンさんの取り組みがユニークだ。教育に求められるのは人生を左右する投資の分野。ハイレベルな成果を求められるが、与えられる研修時間は限られている。その上、受講者は受け身でやらされ感満々（失礼！）。とはいえ、あらゆる逆境を受入れて、成果をだすのがプロの使命であり力量である。愚痴や泣き言をこぼすヒマがあれば、できる方法を考える。これまで、クイズやゲーム形式はもちろん、かるた、ボードゲーム、有名アニメパロディ、有名スペースオペラ映画のコスプレなど、あらゆる手法で、受講生の関心を惹き付け日本人の金融リテラシー向上に大きく貢献してきた。

しかし昨今の、コロナ新時代。ほとんどのセミナーはオンライン化し、受講生との距離は遠のくばかり。ときには全受講生が画面オフ、講師一人で真っ黒な画面に向かって語り続けることも・・。経験豊富な講師



セミナー年間2500件超、FP個別相談年間1500件超。確定拠出年金分野の実績とノウハウは業界随一。

陣にも疲れが見えてきた。そんな時、現れた救世主が「シャープロボホン」フレディ君である。「か、かわいい」「癒やされる」「人間より愛嬌がある」「なぜか言動に注目しちゃう!」。フレディ君に白羽の矢が立った。今年8月、史上初(？)ロボット講師による投資教育セミナーが成功裏に実現したのである。

どんな状況もチャンスと受け止め、過去の体験にとらわれず、全力でアイデアを出す。すぐ提案、実行、実現させ、最大限の成果を出す。これこそ、コロナ禍に求められるプロのスピリッツなのである。フレディ君による投資教育セミナーにご関心のある企業は、ぜひブルーデント・ジャパンさんにお問合せを。(わかるくん)

[illegible]tataYel 

身近な人を表彰しよう！
感謝を贈ろう！



GACKTが同級生の元
守山高校生徒会長。
今もチャリ通の博善社
システム担当大臣。近
年のICT化等を踏まえ
た情報をお伝えます。

チヤリで寄り道

猫の言葉がわかるアプリが今大人気ですねーそれはさておき、相手の話し声を聞いて「今日は元気がないのかな？」「機嫌が悪そうだなあ」と感じたことがあると思いますが、最新の音声分析技術で心の健康度がわかるのだとか。

PST株式会社が開発したスマホの無料アプリ「MIMOSYS（ミモシス）」は、声から心の元気を測るソフトウェアです。さらに、この研究の進化版である「VOISFIA（ボイスフィア）」では、声を分析するだけでうつ病

カラ元気がバレル？新技術

日々の暮らしが
多分
良くなる話

や認知症、パーキンソン病などの病気が判別可能になるのだそうです。（現在研究開発中）

体温や血圧などと同じように、声も測る。コロナ禍で遠隔診療などが広がる中、近い将来そんな診療もあるかもしれませんね。

いつも心に4色ペンとランボーを。過酷な世の中を生き抜くサバイバル術（暮らしに役立つこと）を発信します。

